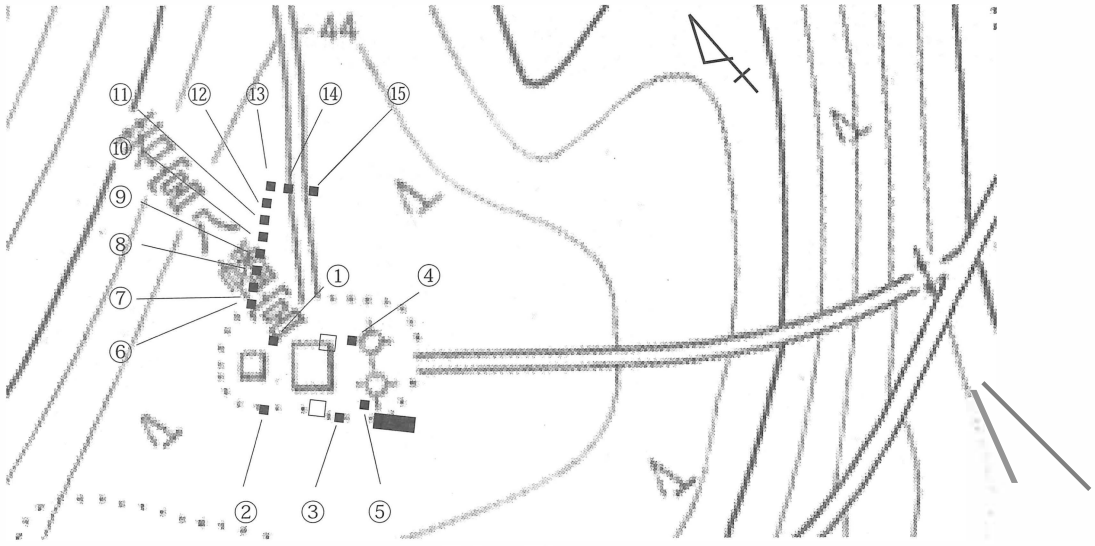
8.美濃山若宮八幡宮

若宮八幡宮は、八幡市美濃山宮ノ背に所在する神社で、やや小高い場所に位置している。『村誌』によれば、應神天皇を祭る神社であり、創祀は明和2年(1765)とされるが、祭神については、諸説あり現在地元では、仁徳天皇を祀る。

神社の境内にある石燈籠は15基であり、そのうち14基が対をなしている。このうち、1～5は拝殿および本殿にともなう石燈籠である。一方、6～13は、摂社にともなう石燈籠である。このほか、神社の入口には石製鳥居1基、社号標1基、参道には石製鳥居1基、狛犬1対がある。

石燈籠は、文化7年(1810)（3・4)、文政10年(1827)(6・7)、大正11年(1922)(5)に製作されたものであることが銘文から確認できる。形状は、円柱形(5)、方柱形(1～4・8～15)、撥形(6・7)に分類できる。これらは、現在確認できるものについてはすべて石製であるが、1・2の笠部下面および中台上面には枘穴が確認でき、元々は木製の火袋がこの笠部・中台と組み合わされていたことが確認できる。石燈籠は、石の組合せ製品であり部材の改変・更新が比較的可能であるという特性をもつため、このような部材の更新を行うことが可能なのであろう。

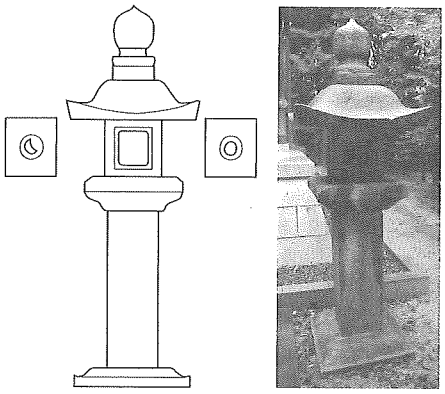
3・4の石燈籠の竿部には、文化7年(1810)の年号と若宮八幡宮の社号が刻まれている。この年号は、美濃山若宮八幡宮に現存する石造物の中でも最古の年代を示すものであり、『村誌』に記載されている創祀年代とも大きくは矛盾しない。したがって、この石燈籠は当初より若宮八幡宮の本殿に伴うものであったと推測でき、創祀についての記載の確証になると考えられる。（初村武寛）



石造物の配置

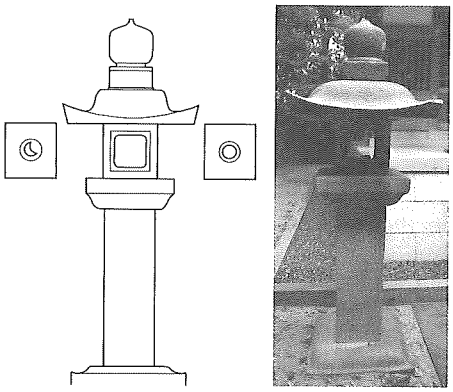
図21　美濃山若宮八幡宮(1)

境内の景観



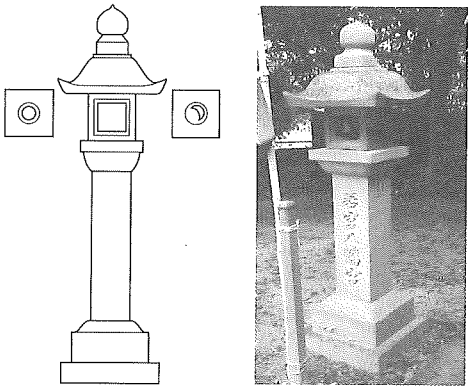
[右面（西）]願主　堀口文治

①



[左面（東）]願主　堀口文治

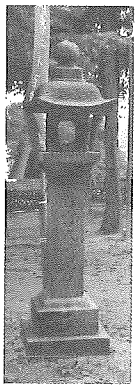
②



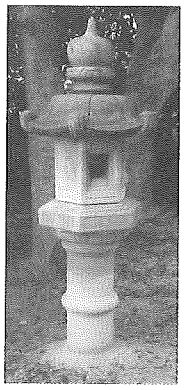
[左面（西）]文化七午年九月吉日

[右面（東）]若宮八幡宮

③(④)

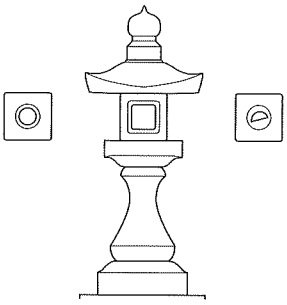


④



[背面（西）]大正十一年

⑤



[正面（南）]天照皇大神宮

[背面]文政十丁亥年

□□吉祥日

[右面]八幡大菩薩

[左面]春日大明神

⑥(⑦)

⑦

図 22　美濃山若宮八幡宮（2）

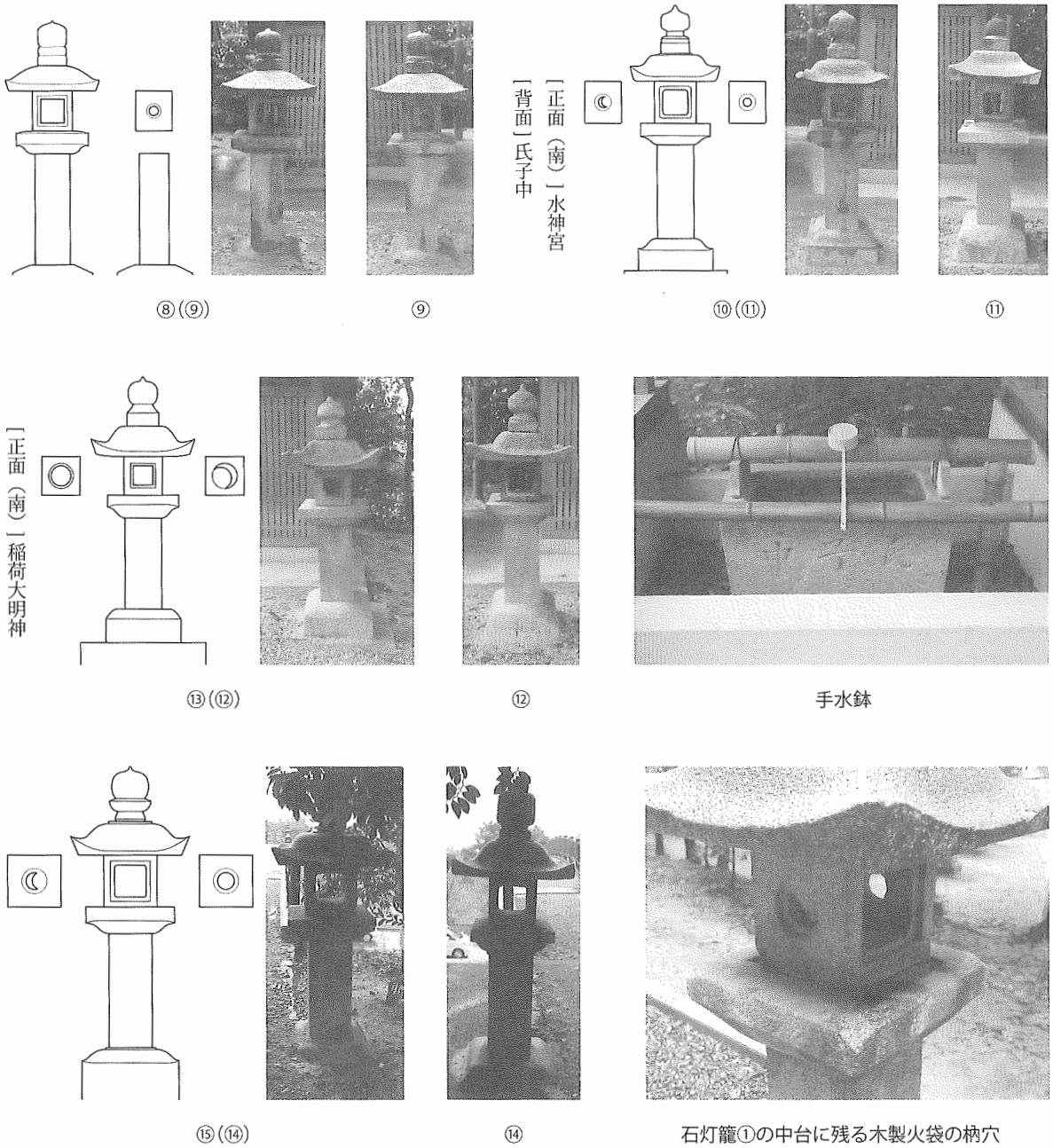


図 23　美濃山若宮八幡宮（3）

表紙の解説

5 （裏）	1　2　3 4 （表）

1　聞き取り調査の様子

2　善法律寺と紅葉（提供：善法律寺）

3　石造物調査の様子

4　安居橋と桜（撮影：中井正寛氏）

5　中ノ山墓地　十三仏の阿弥陀像（撮影：中井正寛氏）

京都府立大学文化遺産叢書　第４集

八幡地域の古文書・石造物・景観
―地域文化遺産の情報化―

編　集　東　　昇（京都府立大学文学部歴史学科准教授）
　　竹中　友里代（同　　特任助教）
発　行　京都府立大学文学部歴史学科
　　〒606-8522　京都市左京区下鴨半木町 1-5
発行日　2011 年 3 月 31 日
印　刷　三星商事印刷株式会社
　　〒604-0093　京都市中京区新町通竹屋町下ル